この公園は，川崎市制60周年記念事業のひとつで，本市4番目の総合公園となります。現況の地形，まわりの林などを大切に守りながら，だれもが安心して遊べる，水とみどりの公園です。

園路のマンホールには，麻生区にちなんだ絵が描かれています。散歩をしながら，ぜひ麻生の自然と歴史にふれてみてください。

それぞれの絵の中に，グー，チョキ，パーのいずれかと数字が入っています。
仲間で，いろいろ方法を考えて，ゲームをしてみてはいかがでしょうか。

1 ノスリ
2 イタチ
3 古代牧場
4 ヤマユリ
5 ホタル
6 キキョウ
7 タヌキ
8 カワラナデシコ
9 万福寺ニンジン
10 禅寺丸柿
11 オオムラサキ
12 メダカ
13 黒川ナシ
14 キジ(ヤマドリ)
15 ノウサギ
16 岡上のカボチャ
17 弘法の松
18 縄文土器
19 関東ゾウ
20 カブトムシ
21 岡上のクジラ
22 タマノカンアオイ
23 常安寺のカッパ
24 鶴見川のツル
25 イシガメ
26 アカマツとハルゼミ
27 王禅寺の草競馬
28 カワトンボ
29 サワガニ
30 亀井六郎と僧兵

ノスリ 1

ワシやタカと同じ種に属する小型の猛禽類です。つばさの長さは35センチくらいで，ネズミやヘビ，カエルなどを捕食します。早野や黒川の山地の上空を，円を描いて飛んでいるのをたまに見かけます。安全な巣を作れる場所とエサになる小動物のいる山地が少なくなってしまいました。ノスリやサシバのようなタカ科の猛禽類が住んでいるということは，自然が豊かであるという大事なめやすです。

2 イタチ

麻生区は，「緑豊かな」と表現されてきましたが，道路や宅地の開発におされ，野生動物も住宅難の時代になってしまいました。

造成工事があって山地がけずられると，その地つづきの近辺にタヌキやムジナ（アナグマのこと）が出てきて，夜道を横切ったのを見たとか，庭にえさを置いておくと食べていったといった話をききます。

白山の団地の商店街裏の池は「ムジナが池」といいますが，むかしこのあたりにムジナが住んでいたので，そう呼ばれるようになったのです。ムジナもタヌキも，そしてキツネもイタチも，このあたりのどこにでもいた動物でした。

この公園でも，工事が始まる前には１メートル四方もあるタヌキのフン（タメクソ）を見つけたことがあります。

古代牧場 3

昭和 47 年（1972）のこと，早野の聖地公園区域内の一画にある横穴古墳の中に，馬や，牧場の主かと思われる人の顔を刻んだ線刻画が見つかりました。 7〜8 世紀（奈良時代初期）のものだろうといわれています。当時，このあたりには献上馬の牧場があったといわれ，横浜市緑区の石川町の地名は古代牧場，石川牧からおこったといいます。

また，万葉集には，「赤駒を山野に放し捕りかにて多摩の横山歩ゆか遭らむ」（4417）という歌もあり，良馬の産地であったのです。

4 ヤマユリ

百人もの人が力を合わせて切り開いた丘の意味の百合丘には，また野生のユリがたくさん咲いていたといいます。白い大きな花があちらにもこちらにも咲いていて，においにむせかえるほどだったと，開発の前の様子を知っている人が話してくれました。ユリは神奈川の県花になっています。

ホタル 5

幼虫は，田や小川のカワニナをエサにして約１年で成虫になります。６，７月ごろ，夕方７時すぎに，黒川や早野，日吉のあたりで見られるのは，大体ヘイケボタルです。このヘイケボタルより一まわり大きく，６月初めに出てくるゲンジボタルも，わずかながら，まだ生息しています。

今は，見られる場所も数も少なくなりました。きれいな水の流れるところが少なくなったからです。この公園でもホタルが見られるようになるといいですね。

6 キキョウ

秋の七草の仲間，キキョウ，ナデシコは夏の終りから秋にかけて，山地や川辺の草地ならどこででも見られたものでした。花屋さんにある花のように，はでな目立つ花ではありませんが，ナデシコもキキョウもか細いながら，力強い姿をしています。

黒川の谷戸田のきわに咲いていたカワラナデシコを見つけたことがあります。このうす桃色の花は，きっと田で働く人の目をやすめたことでしょう。

タヌキ 7

2．イタチを参照

8 カワラナデシコ

6．キキョウを参照

万福寺ニンジン 9

今の麻生区役所，麻生郵便局から百合丘にかけての地名を万福寺といいます。今は，どんな寺であったか，どこにあったか全くわかりませんが，昔，そのあたりに，万福寺という寺があった名残りです。

この万福寺辺りの特産品は，ニンジンでした。本当は，「万福寺鮮紅長大人参」というその名の通り，色のあざやかな，とても細長い人参で，昭和29～33年（1954～58）には，連続，日本一の人参として農林大臣賞をとりました。

が，だんだん西洋人参におされて，今は，溝ノ口の山岸正明さん一人が，わずかに栽培を続けていらっしゃるだけです。今の百合小のあたりが，日本一の人参畑でしたが，川崎には農業経営に研究熱心な人たちが多いのです。

10 禅寺丸柿

禅寺丸柿は，ピンポン玉より少し大きくて色もあざやかな甘味の濃い柿です。柿生のあたりの農家の庭には，必ずといってもいいくらい植えられていて，小田急線沿いの秋をいろどっています。この柿が，柿生の名産になったことについては，こんな話が伝えられています。

柿の名前のもとになった王禅寺は，延喜17年（917)に建てられた古い寺で，室町時代には，関東の高野山といわれたほど栄えましたが，元弘3年（1333）新田義貞が鎌倉を攻めた時に，焼かれてしまいました。その後，建徳元年（1370)，等海上人が朝廷の命令で再建しました。上人は寺を建てる材料を探して山中を歩きました。その時，赤くかがやく小粒の甘い柿を見つけたので，枝を折って持ち帰り，接ぎ木をしたのがはじまりといわれます。等海上人は村人に，この柿を増やして，村の特産品とするようにすすめました。

その後，江戸時代になってから，領地の見まわりに来た家康が，王禅寺丸と名づけるようにと言ったそうです。いつか王の字がなくなって，禅寺丸柿と呼ばれるようになりましたが，この柿を江戸へ持っていくと，他の柿の3倍から4倍の値で売れたといいます。小田急線が開通するまで，禅寺丸柿は，朝早く読売ランドの辺りから多摩川を渡って，東京へ出荷されていました。今の地名の「柿生」も，もともと柿のたくさんなるところの意味でつけられたものです。

王禅寺の境内には，禅寺丸の原木といわれる木があり，そのそばには，詩人，北原白秋の詠んだ，

柿生ふる柿生の里
名のみかは禅寺丸柿
山柿の赤きを見れば
まつぶさに秋は闌けたり

の歌碑が建っています。

11 オオムラサキ

翅は，濃紫にほんの少しの黄，黒，うす青で彩色されています。ひろげると10センチほどにもなります。優美に舞う姿は，国蝶の名に恥じません。オオムラサキの幼虫は，エノキの葉を食べて育ちます。成虫はクヌギやコナラなどの樹液が食料です。オオムラサキは環境の変化に敏感なチョウで，生息には広い雑木林を必要とします。

昔はエノキは目じるしの樹として街道沿いに多くありましたが，今はエノキや雑木林が少なくなったこと，美しく大きいためにチョウの収集家にとられたことで，麻生区内では早野や黒川でほんのわずか生息しているだけになりました。

この公園にもエノキが数本ありますが，オオムラサキの見られる公園になってほしいですね。

メダカ 12

緑の葉がそよぐ田んぼが，そこここに連なっていたころは，田に水を引く用水や小川には，メダカが群れて泳いでいました。ドジョウもいました。ザルですくえばシジミがとれました。カラスガイもありました。人がふえ，田んぼがなくなり，川が汚れるにつれ，この近くでは見ることができなくなりました。

13 黒川ナシ

大師河原村（今の川崎区）では，江戸時代の天保のころ（1830年代）から，ナシの栽培が盛んでした。その河原村に当麻辰次郎という人がいて，明治26年に甘くて収穫の多いナシの品種改良に成功しました。辰次郎の屋号が長十郎なので，このナシは「長十郎ナシ」と命名されました。その後ナシの栽培は，栽培に適した砂地の多摩川沿いを上流に移ってきました。

黒川の地質も稲城砂層なので，ナシの栽培に適しており，おいしいナシができます。それで特別に黒川ナシの名称で呼ばれています。また，大師河原辺では昔からモモやイチジクの栽培も盛んでした。黒川でも，モモやリンゴを作って町の活性化に努力している人たちが大勢います。

キジ（ヤマドリ） 14

この公園の工事が始まったばかりのころ，日あたりのよいしげみのそばに，ひとつがいのキジをよく見かけました。オスは緑，青，赤などが複雑にまじり合った美しい羽でおおわれています。首と長い尾を優雅にのばして，静かに歩きます。メスは地味なうすい茶色で，少し小柄です。

似たような色合いで，一まわり大きいのがヤマドリです。キジもヤマドリも，早野から寺家にかけての山中で，時々見ることができます。昔は，このあたりにたくさんいたことでしょう。キジが住めるような公園になってほしいですね。

15 ノウサギ

ウサギはおくびょうな動物ですから，人の気配のある所へは出てきません。が，草むらやしげみのそばなどを注意深く見ると，うす茶色のころころした甘納豆のようなフンがあるので，ああ，ノウサギがいるな，とわかります。この公園の近くにもまだいるようです。

岡上のカボチャ 16

川崎の飛び地，岡上の自慢の産物は，カボチャでした。今，八百屋で売られている西洋カボチャとは違って，皮にしわが多く，表面に深いみぞが何本も走った，濃いみどり色のカボチャでした。溝ノ口や，原町田の朝市に出荷されていました。

17 弘法の松

弘法大師が，諸国行脚をした時，なだらかな山谷つづきのこの地が気に入り，仏教布教の殿堂を建てようとしました。しかし，百には谷が一つ足りなかったので残念に思って，代りにその丘の上に黒松を植えたのが，弘法松の由来だという伝説があります。ここは江戸時代には，津久井街道という大事な交通路の柿生，長沢方面への別れ道でした。尾根づたいの困難な道で，近く（南百合小近くの送電塔のたっているあたり）には，旅人の休む茶店があったといいます。

弘法の松は，高さ30メートル，幹のまわりは8メートルあったといいますから，よい目印だったでしょう。昭和31年（1956）12月，いたずら者の焚火の不始末で燃え，枯れてしまいました。今は2代目の松が育っています。この松のある弘法松公園は，富士山，丹沢の山々の眺めのよい公園です。

縄文土器 18

多摩川，鶴見川にはさまれた麻生区一帯と，その周辺の稲城，横浜市緑区のあたりには，大昔から人々が生活していました。黒川では，営農団地造成工事予定地から，2万年前の石刃と掻器が出土しています。これらは皮を細工する時使ったものです。

また，縄文時代の住居跡や，獣をとるための落し穴の跡も，岡上や山口台でたくさん発見されています。川に近いなだらかな丘陵地は，獲物になるイノシシやシカなど動物も多く，気候もおだやかで住みよかったのでしょう。

今，私たちの家が建っている所でも，2500年もの昔には，石刃や石鏃を持った人たちが獲物をうちとめて歓声をあげたり，野草をつんでいたと考えると，楽しい気持ちになります。

19 関東ゾウ

昭和2年（1927）3月，万福寺507に住む才沢さんは，物置を作ろうと，裏山の崖をけずっていました。3～4メートル掘った時，30～40センチもある大きな化石が出てきたのです。専門家の鑑定で，それはゾウのあごと歯の化石であることがわかりました。

今から200万年前（鮮新世末から洪積世初期）に，このあたりの温暖な森林地帯に生息していたステゴドン象の一種で，体長2～3メートルの「あけぼの象」と呼ばれる種類でした。今，この化石の標本は，生田緑地内の川崎市立青少年科学館で見ることができます。

カブトムシ 20

1970年代までは，カブトムシもクワガタも，このあたりの雑木林の主役でした。夏になると，男の子たちは，これと思う樹に，前夜砂糖水や，ハチミツを塗っておき，翌朝早くつかまえにいきます。そして友だちと大きさを競い合ったりしたものでした。雑木林がなくなると，卵をうむ所も，食料の樹液もなくなり，今では人工で育てて，デパートや八百屋の店先で売られるという，おかしなことになってしまいました。

21 岡上のクジラ

昭和44年（1969）の夏のこと，市立柿生中学2年生だった田部井裕介君は，岡上のがけ地で，クジラの肋骨の化石を発見しました。今から2000万年前には，多摩丘陵は海底にあったのです。クジラの肋骨は，海がこの近くまで来ていたという証拠です。

タマノカンアオイ 22

ウマノスズクサ科のカンアオイの亜種で，生田緑地の近くで発見されました。伝播の速度が遅いので，分布地域の限られた貴重な植物です。このような植物には，開発は致命的な痛手です。

23 常安寺のカッパ

むかし，谷本川（鶴見川の支流）に平六というカッパが住んでいたそうな。ある晩，利平じいが，畑のキウリを盗んでいる子どもをつかまえてみると，なんとカッパの平六だったそうな。

平六は逃げようとして，頭のサラの水をこぼしてしまい，利兵じいに左手をとられてしまったと。利兵じいは家に帰ると，カッパの左手をいろりの自在かぎにさげておいたそうな。すると平六があやまりに来て，「以後，キウリは盗まぬと誓い申し上げ候。河童平六，これを書す。」と証文を書いて，手にすみをつけて，手形をおしたんだそうな。

平六は，それからは畑を荒らさなくなったけれど，平六をかわいそうに思った利兵じいは，平六のために時々川にキウリを流してやったということだ。その証文は，常安寺が天文11年（1542），火事で焼けるまで，寺にあったということです。

鶴見川のツル 24

鶴見川の名の由来は，ツルがたくさん来る川だったことにあるそうです。青く晴れた空のかなたに白い富士山が浮び，ツルの群れが舞い降りている昔の鶴見川を想像してみて下さい。川にはツルの好物の魚や虫がたくさんいたでしょう。

江戸時代には，このあたり一帯は徳川将軍家のお狩場でした。明治になって狩猟が大衆化した時，目立つ鳥のツルは争って捕りつくされてしまったのです。

25 イシガメ

イシガメやクサガメは，沼や池，川に住んでいる日本の代表的なカメです。川がコンクリートで護岸され，沼地が埋められたり干上がったりしてしまった今では，ほとんどいなくなりましたが，ひと昔前までは，子供たちに人気のあったペットでした。時折，早野の上池などで甲羅干ししているのを見かけることがあります。

アカマツとハルゼミ 26

ハルゼミは，４月すぎに地中から出てきて，松林の中で「いい季節だよ，カルルル，一番のりだよ，ミーンミーン」と鳴きます。

マツは，15年戦争の終りごろ，松根油をとるためにたくさん切り倒されました。残った木もマツクイムシなどの害虫にやられて，急速に減りました。松林がなくなったので，今はもう，ハルゼミを見ることができません。

27 王禅寺の草競馬

この公園の南側にそって，一本の道が通っています。昔は，王禅寺の境内だったところですが，小山の背になっていて，北側斜面（今の公園）には田んぼが，南側には畑がありました。この道で，大正時代，農作業のひまな時期に，草競馬が行われていたといいます。

馬は，農作業になくてはならない動力でしたが，草競馬は，農閑期（1～3月ごろ）に人も馬も一緒に楽しんだ娯楽でした。今も，この馬場道の地面にたってみると，馬が土をけってかける音や，馬に声援を送る村人のかん声が聞こえてくるかもしれません。

カワトンボ 28

カワトンボは，きれいな流れがある所では，どこでも見かけることができます。長さ4センチほどの，金緑色の細い胴体のトンボです。黒川の三沢川，栗木の片平川が流れ出すところでは，たくさん見かけたものでした。

29 サワガニ

甲羅の大きさが 1.5 センチぐらいで，緑茶色や褐色のこの小さなカニは，水のきれいな小川や、わき水の岸辺に住んでいます。サワガニの名のとおり，山の沢にたくさんいます。麻生区内には，鶴見川や多摩川につながる川の源流がいくつもありましたから，サワガニもいました。今はその源流が殆どなくなり，サワガニの姿もまれになりました。

亀井六郎と僧兵 30

亀井六郎は義経四大王の一人といわれた鎌倉時代の武士で，月読神社近くの亀井原にその館の跡があります。今は警察団地になっています。弓の名人で，亀井館から能ケ谷の真光寺川の橋をねらって射た矢が見事命中したので，その橋は矢崎橋と呼ばれるようになったと伝えられています。栗木や町田広袴にも亀井の地名があり，六郎の領地の広さを示しています。亀井六郎は義経に従って，奥州高館で討死をとげたといわれています。